

今後、引き続き某下水処理場におけるパイロットプラント運転におけるデータ収集・解析、特に膜汚染の定量化と曝気量、活性汚泥量、混合液粘性、細胞内外成分等の諸因子との関係、その他基礎的諸特性の把握、分子生物学的手法を用いた膜汚染制御に有効に機能すると考えられる有用微生物群の探索を行うとともに、リングレース等の付着胆体を用いて、より積極的に微小後生動物を繁殖させ、余剰汚泥を発生せず、汚泥管理の容易な微生物生態系を利用したバイオリアクター制御の実証を行う予定である。